

日本紙工機械グループ 既設機の機能向上に対応

来年、新型機 簡単操作グルア

(株)日本紙工機械グループ(茨城県利根町)は、主力ワンタッチケースグルアで新台およびリノベーション機販売に加えて、既存稼働機を対象とした機能向上にも積極的に対応している。顧客を訪問、短期間で改造や電気系統の更新を実施する。早部慎一郎副社長は、「長く安心して使用していただくために、セット時間短縮はじめ機能アップを求める声に応えたい」としている。また、来年中にユーザーフレンドリーを一層追求した新型グルアを発表する予定だ。

同)という。それらの要る役割も担っている」と望みに対し、例えば、新たにしている。作業は週末2日程、翌週に動作確認を完了するというスケジュールが多い。「良い機械を長く使用したいという

要望に添えていくのもメーカーの重要な役割」と強調した。

また、来年半ば頃を目途に、新開発のワンタッチケースグルアを発売する予定だ。コンセプトは「誰にでも操作できるような、熟練技術を可能な限り必要としないマシン」。人手不足や技術継承などが段ボール産業でも大きな課題となる中、この解消を最重点に置いた新型機になるという。発売とともに内覧会も計画している。

マシン更新する間隔は各社各様なもの、それに至る前段階の時期であっても機能を向上させたといったニーズに応えるため、顧客それぞれの状況を常に把握することで改造の提案を強化している。特に近年は、「働き方改革の影響もあって、製造時間が限定される状況下、セット時間の短縮や、精度向上に伴う不良低減によって生産性を向上させたい」という声が多い」(早部副社長、以下

「(改造や機能更新は機械を熟知している)オペレータがその効果を良く理解しているが、役員など上長に言いにくい」ともあるだろう。その際は当社が決定権のある方に、具体的な効果を伝え

「(改造や機能更新は機械を熟知している)オペレータがその効果を良く理解しているが、役員など上長に言いにくい」ともあるだろう。その際は当社が決定権のある方に、具体的な効果を伝え